

そ の 他

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

その他

歴史の継承・既存施設の有効活用



基本情報

大学名：東京大学
建物名：法学部3号館
工期：平成23年3月～平成24年3月
構造・階数：SRC・地上4階（既存）
S・地上10階（増築）
延床面積：10,007㎡
（改修面積 5,902㎡）
（増築面積 4,105㎡）
事業費（設計費含む）：1,852,952千円



整備の方向性

○改修及び増築

- ・本事業は耐震化対策及び老朽狭隘化解消のための工事である。既存建物は口の字型の平面形状であり、建物に囲まれた中庭部分に書庫と研究室を新たに増築した。

○歴史的な景観軸を構成する重要建物

- ・既存建物は昭和2年に建築された「内田ゴシック」と呼ばれる様式で建物外観は国の登録有形文化財に指定されている。
- ・学内においてもキャンパス計画要綱に定める保存建造物1種及び本郷キャンパスにおける歴史的空間1種に指定されるエリアに位置しており、正門から安田講堂に連なる景観軸に接している事からも本郷キャンパスの景観において最も重要な役割を果たす建物である。

計画・設計上のポイント

○歴史の継承

- ・既存建物の外壁廻りに耐震補強を施さない等、創建時の内田ゴシック様式を尊重し、既存外観の変更は行わない。
- ・増築部の高さとボリュームは景観シミュレーションに基づき地上からの見え方に十分配慮して決定。
- ・パブリックエリアの内装は、創建部材を保存補修し、創建意匠を継承。

○図書機能の拡充

- ・開架閲覧室の拡大、電動集密書架（80万冊）の設置。
- ・図書利用者動線を明瞭化し、セキュリティシステムの再構築。

○維持管理・環境負荷低減

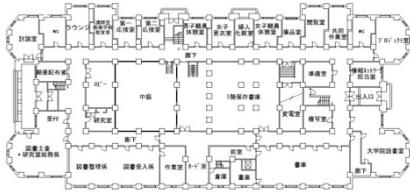
- ・断熱仕様の強化、マルチ空調方式によるメンテナンスの効率化・省スペース化、LED照明の採用等

○現行法規への対応

- ・バリアフリー対応、防火区画の再整備、防火・消防設備の現行法規への改修。

Before

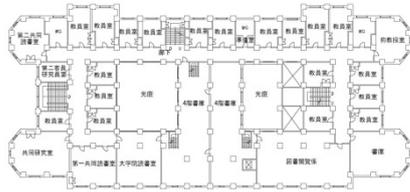
1階



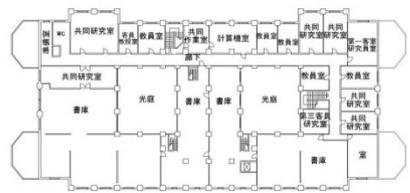
2階



3階



4階

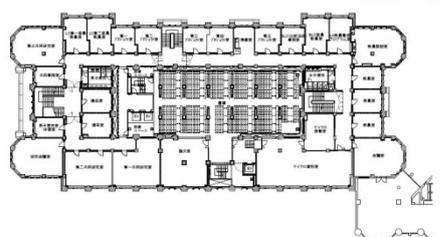


After

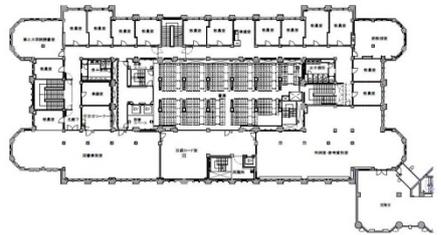
1階



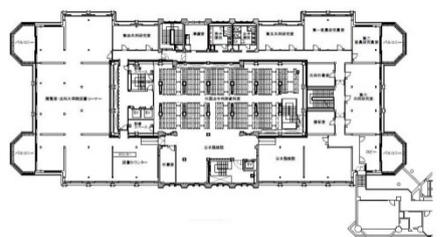
2(L2)階



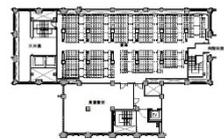
3(L4)階



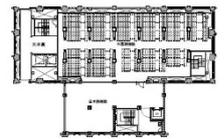
4(L6)階



(L3)階



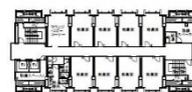
(L5)階



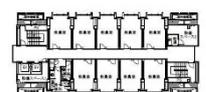
5階



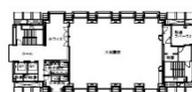
6階



7階



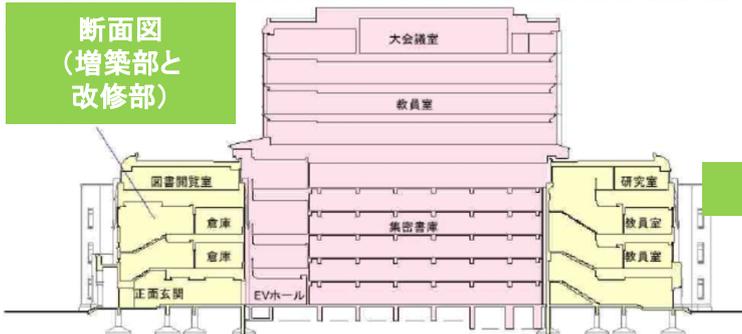
8階



R階



断面図
(増築部と
改修部)



既存部を撤去し、旧中庭に10層のボリュームを増築

Before



中庭外壁



中庭



階段（鋳鉄製手摺）



内部建具



廊下



マントルピース
（暖房機を内蔵した暖炉）

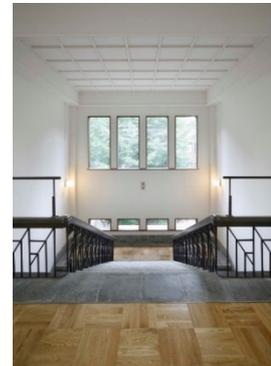
After



旧中庭外壁



書庫（中庭増築部）



階段



図書受付カウンター



閲覧室



廊下



ラウンジ
（マントルピースを保存）

施設整備の効果

○図書環境の充実

- ・分散していた図書を収蔵スペースに集中させることで、図書室資料の充実を図ることができた。
- ・本工事に伴い機能的な研究遂行を可能にするための情報収集・検索システム用機器を整備したため、学生利用者数は倍増した。
- ・さらにILL（図書館間相互貸借）のサービスを拡充し、学内外の利用者がより本図書室資料を活用できるようになった。
- ・閲覧環境も格段に改善され、以前は暗く狭いイメージがあったが、明るく開放的な雰囲気になったと利用者からは好評である。

○若手研究者の育成環境の整備

- ・若手研究者のための十分な研究スペースの確保のほか、研究会室・談話室等が設けられ教育・研究の交流の場が増えたこと、また、図書スペースの拡充により資料が充実したこと等により若手研究者の育成環境が充実し、社会科学としての更なる規範研究への発展が望めるようになった。

○歴史的建造物の増改築手法に関する事後評価

- ・法学部3号館は、学内においてキャンパス計画要綱に定める歴史的建造物1種に指定されており、そのため既存ボリュームに配慮した増築や、建て替え前のファサードを最大限尊重した「外壁保存」という手法が選定された。
- ・今後、学内において新たに歴史的建造物の増改築が行われる際に、過去に選択した増改築手法の有効性や反省点等が重要な情報となることから、キャンパス計画室内でのWGにおいて、法学部3号館(及び他事例)における増改築手法について事後評価（レビュー）を試行的に実施している。



昭和2年 竣工当時南側外観



南側玄関アーチ（改修前）



今回工事完成時 北側外観



南側玄関アーチ（改修後）